

## 【緊急調査 2 : 2020/3/25-31】 新型コロナウイルス(COVID-19)に対する 教育機関の対応状況調査結果 (速報)

(一社) 日本人間工学会  
2020/5/25

## Summary

- 新型コロナウイルス (COVID-19) への現段階での教育機関における情報通知・実施状況を把握し、人間工学の観点から社会へ推奨事項を提案する基礎資料とするために、教育機関に勤務するJES会員を対象にオンライン調査を実施、83名から回答を得ました。
- 調査時点で、開講時期が変更された教育機関が大半を占めており、3月20日以前が34.2%、21日～31日までが59.4%だった。多くの教育機関で3月中の開講を見込んでいた。
- 回答者が所属する教育機関における意思決定への印象について、日本の状況を踏まえた決定が行われていると感じた回答者が多くいる一方、世界の状況や世の中の状況に先回りした決定が行われていると感じた回答者は少なかった。又、スムーズな意思決定が困難な状況下にあったことが示唆された。
- 調査時点で、休校措置はとられていない教育機関がほとんどだった。部活・サークル活動は5割で原則禁止となっていたが、実施しているところも多かった。
- 回答者の子供については、小学生以下との回答が多く、4月以降の対応が決まっているところが多かった一方、この時点では通常通りの開校が予定されていた。
- 子供が通学する学校が休校状態の時のワークライフバランスについて困っていることについては、回答者自身よりも子供に関する回答が多かった。

# 調査概要

□目的：教育機関に勤務する学会員を対象に，COVID-19への現段階での教育機関における情報通知や実施状況を把握し，人間工学の観点から社会へ推奨事項を提案する基礎資料とすること

□オンライン調査法

□回答期間： 2020年3月25日（水）～31（火）



日本人間工学会学会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail jes@ergonomics.jp  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# 回答者属性

□回答者： 83名（／772名\*1，回答率10.8%）

\*1:正会員1,319名中教育機関に勤務する学会員数

□勤務先： [大学]：92.8%，[高専・専修学校]：2.4%，[短大]：3.6%

□性別： [男性]78.3%，[女性]21.7%

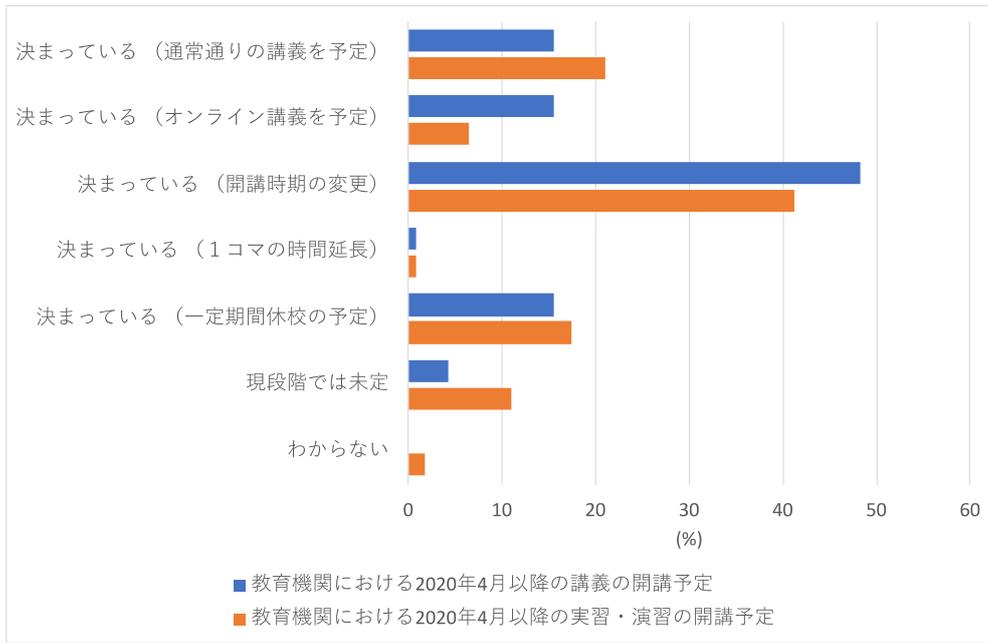
□年代： [20代] 0%，[30代]14.5%，[40代]26.5%  
[50代]37.3%，[60代]21.7%，[70代] 0%



日本人間工学会学会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail jes@ergonomics.jp  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

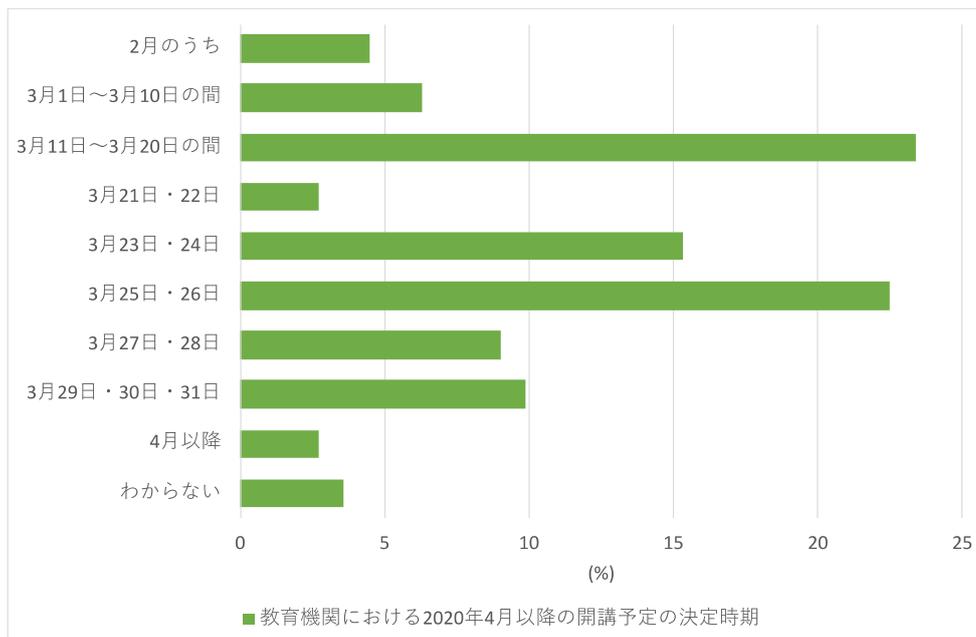
## 勤務する教育機関における2020年4月以降の 講義および実習・演習の開講予定（複数回答）



日本人間工学会学会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail jes@ergonomics.jp  
Web http://www.ergonomics.jp/

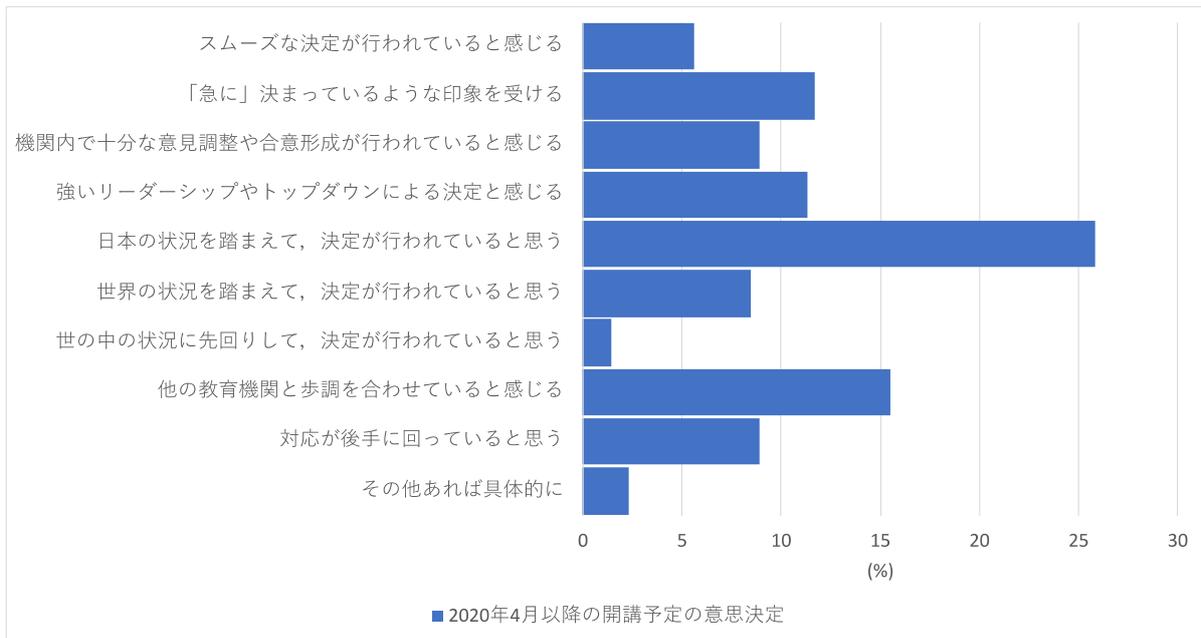
## 勤務する教育機関における2020年4月以降の開講予定の決定時期 （複数回答）



日本人間工学会学会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail jes@ergonomics.jp  
Web http://www.ergonomics.jp/

## 勤務する教育機関における2020年4月以降の開講予定の意思決定に対する印象（複数回答）



## 勤務する教育機関における2020年4月以降の開講予定の意思決定に対する印象

### ■ 具体的な印象

- 私は、危機対策本部の構成員であるため、意見調整を行っているように進めているつもりであるが、実際、教授会での強烈な抵抗があるのは事実である。同時に、他大学の状況を鑑みてみて意思決定を行ってきたが、まったく教育、危機管理の思想が異なっているところもあり、歩調が合わせるのには難しい実感がある。
- 対応が二転三転し、振り回されている感じがする。
- どう対応していいかの意思決定がまだされていない。
- オリンピックの延期が濃厚になってから一気に動き出した印象がある。
- 先が見通せない状況であるため状況が変わるので急な変更も致し方ないことかも知れない。

# 勤務する教育機関における2020年4月以降の開講予定の意思決定に対する印象

## ■ 印象を受けた原因について思い当たること

- 小中高等学校に対する文科省の姿勢を参考にしようとしているから。
- 本学の場合は、教員主導の審議による意思決定が大学運営の文化のため
- 世界情勢や日本の各種機関からの情報に合わせて、会議が開催され決定が順次なされているため。
- 文科省の通知や専門家会議の3つの条件を参考にしながら、法人部門と学長、学部長で協議をして決定している。このため十分な意見調整をしているが、教員から見るとトップダウンによる決定に見える可能性がある。
- リスク情報を正しく理解しないまま、過剰な意思決定が行われ、現場から科学的根拠を求められると回答できずに決定を撤回する事が繰り返されている様に見える。意思決定プロセスと意思決定組織の能力の問題か。
- 今回の感染は中国での発症時点から予想できたのではないか。国の対応、文部科学省の対応が後手にまわっているので大学の対応がよかった。国の危機管理体制に疑問を感じる。
- 文科省の小中高等学校に求める休校、再開要請に合わせ、変更している
- おそらくトップは前々から開講日延期を検討していたと思うが、情報統制のためか情報が入って来ないので、「急」「後手」という印象を拭き切れない。
- 国立大学法人は意思決定が独立しているはずだが、文科省との関係は何ら変わっていない。むしろ伺いを立てながらの意思決定になっているため、以前より組織としての負荷が大きくプランニングのパフォーマンスがダウンしていると感じる。
- この1ヵ月、国際、国内の状況、国や自治体の方針をもとに日々、議論がなされ、学生や教職員、そして大学にとってよりよい方針を検討してきたと思う。このような状況であるため、スムーズとはいえず、何度か方針変更もあったが、ポリシーは一貫しており、よりよい方向に決定できてきたと感じる。
- 県立の大学であるため、県の方針を踏まえて体制作りがなされていると考えられる。
- 県内の発症者数がすくないため緊迫感はない。文科省からの通知に従っているのみで、独自の対応はない。
- 特に教員の意見は反映されず、学長、事務局長の意思決定が全てのように感じられた。



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# 勤務する教育機関における2020年4月以降の開講予定の意思決定に対する印象

## ■ 印象を受けた原因について思い当たること (つづき)

- 当初は特に対策などを検討していなかったようだが、現状を鑑みて、この時期ではあるが、検討を始めている。遠隔講義のシステムなどは有しているので、その活用も視野に現在検討が開始されている。
- 緊急的対処であるので、トップダウンによる急な決定でも仕方ないと思う。
- "今現在の"世の中の動きに応じ、ようやく重い腰を上げた印象。いくつかのシチュエーションを想定し、プランを先に立てておくべきであった。
- 大枠の日程を状況に合わせて判断し、過去の受講状況等のエビデンスに基づいて、教室配当などの詳細を逐次決定した。
- 副校長以上で組織する危機管理委員会の中で全てが決められている。各授業における影響への対応は後手に回っている。
- 普段より上位解脱的に決まることが多い。
- 今回のような危機状態でこそ、ガバナンスが発揮されるべきで、合意ではなくTOPダウンで処理をする必要があると考えるが、教学部門のトップの早急な判断が行われておらず、判断が日々変化し、それがそのまま現場に降りてくるため、適切な対応ができていないように感じる。
- 厚労省や文科省の決定に関する情報の共有が随時なされている
- 現状では時期を遅らせることで対応しているが、本質的な対応ではないと感じている。ワクチン開発が少なくとも1年後から1年半後である以上、それまでは遠隔講義など大学にこなくても授業が受けられる体制作りが急務であると感じているが、そこまで考えが至っていないように感じる。
- 単に周辺と歩調を合わせるというよりも、国内外の状況を見据えながらも、国家資格にかかわる学部学科の都合上必要なことは実施することが強く意識されていることを伝え聞いている。
- 本校の授業開始時期は、本校の設置者の意思決定に従う必要があるため
- 2月25日ごろから学内に設置された危機対策本部から対応についての情報が細かく出されるようになった。



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

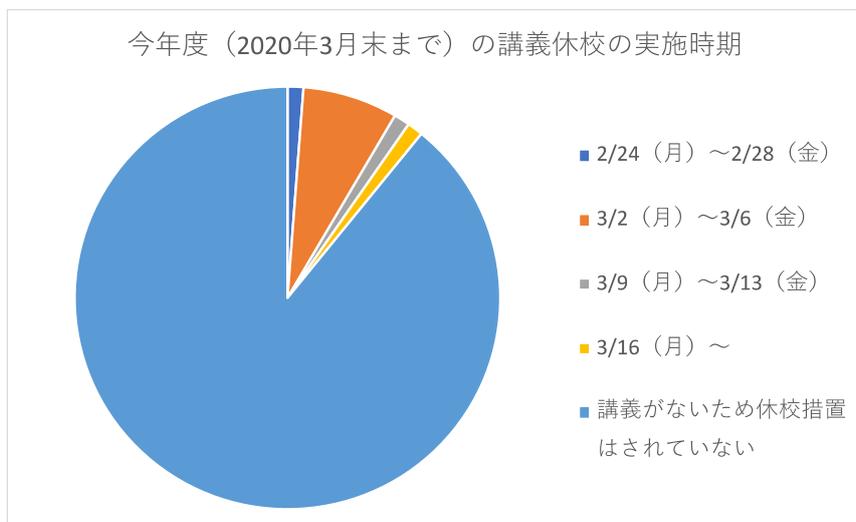
# 勤務する教育機関における2020年4月以降の開講予定の意思決定に対する印象

## ■ 印象を受けた原因について思い当たること（つづき）

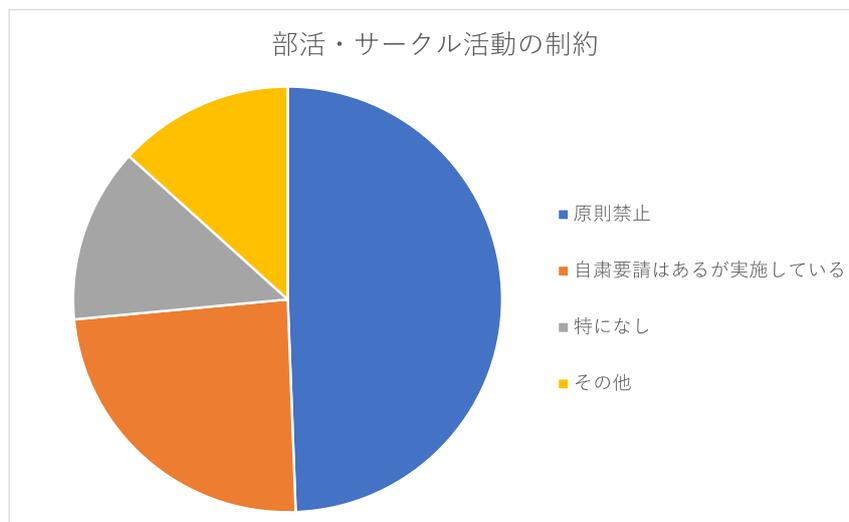
- 事前の意見聴取や広報がなく、他大学の方針が出ると割とすぐに決定された故。
- 告知がなかなか来ない
- 状況の変化に伴い急に決定されたことはやむを得ないと思う 教育の質の低下を招かない配慮が必要である
- 報道の後に協議する、を繰り返している
- 本学はオリンピックパラリンピックに力を注いでいる教育機関ですので、アスリートの意見を聞きながら、周囲の状況も見ながら、合わせて決定している印象を受けます。ただ、卒業式に関しては、数ある教育機関の中でも最も早くの実施予定でしたので、周囲に事例がなく、その分においては、最も早く「中止」を決定したと思います。連絡網は十分に整備されており、「安全危機管理」会議にて強いトップダウンで意思決定され、指示がありますが、状況が刻々と変化しますので、それに合わせた「急な決定」の印象も否めません。
- 県立大学なので、県の方針に準じて対応方法を決定しているように感じる。ただ、国→県→大学という順序で方針が決まっていくので、スピード感、独自性は感じられない。
- いつ、どこで、だれが検討・決定をしているのか、末端の教員にはわからない。
- 決定に関わっていないので特別な理由はありません。
- 体制の整備、研修の実施等

# 今年度（2020年3月末まで）の講義休校の実施時期

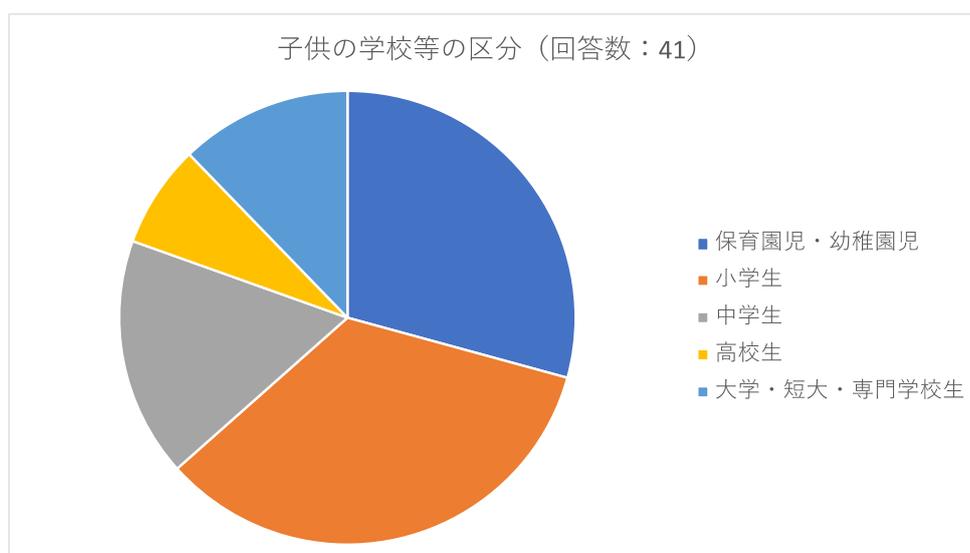
今年度（2020年3月末まで）の講義休校の実施時期



## 部活・サークル活動の制約状況

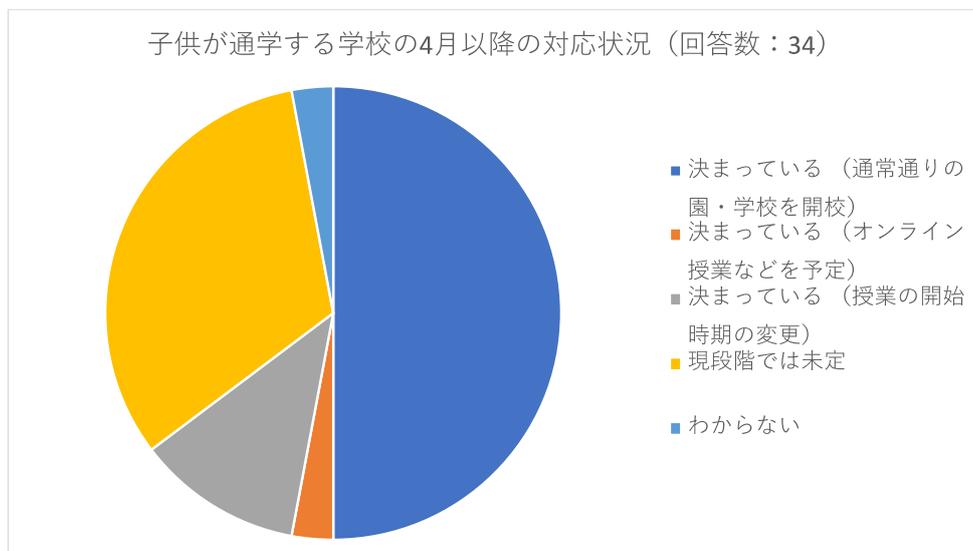


## 子供が通う学校等の区分（複数回答）



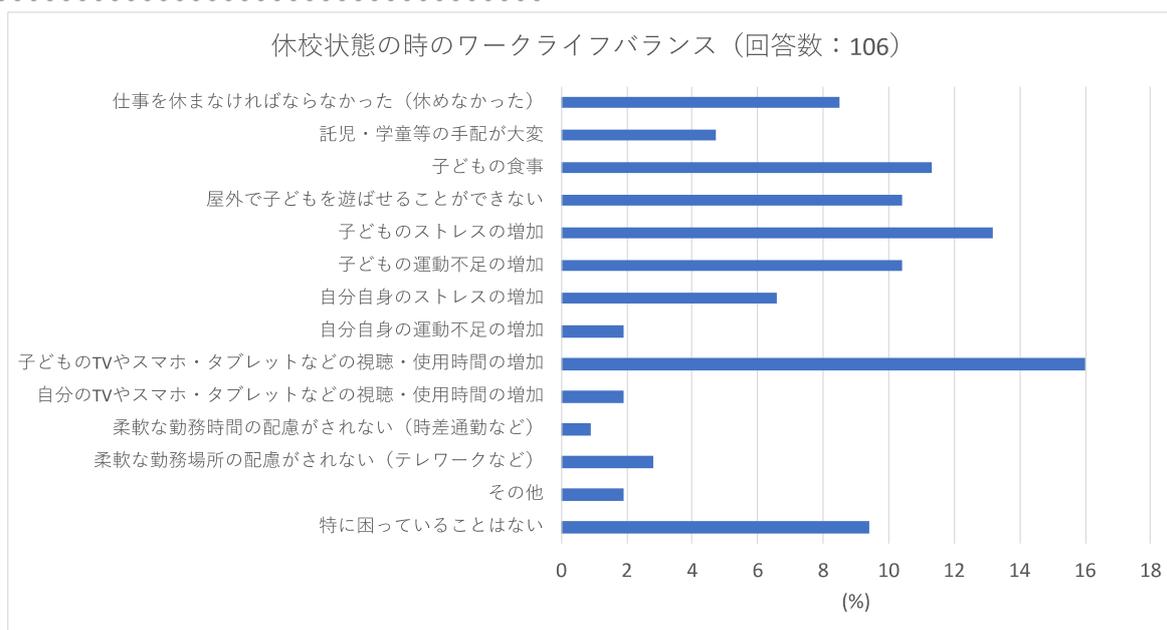
## 子供が通う学校等の4月以降の対応状況（複数回答）

子供が通学する学校の4月以降の対応状況（回答数：34）



## 子供が通学する学校が休校状態の時のワークライフバランスについて困っていること（複数回答）

休校状態の時のワークライフバランス（回答数：106）



# 新型コロナウイルス関連で職場または家庭で工夫していることなどの良好事例

## ■ その他

- 職場の色々な場所にアルコール手指消毒液が完備されている。
- 基本自宅待機
- 早朝、家族が寝ているうちにジョギングをしてストレスおよび運動不足の解消をした。
- twitter上で、信頼できる先生からの情報を読むことが出来た
- 湿度管理
- 会議時のレイアウト(対面にならない様に)、換気の徹底、手袋の使用、手洗いの頻繁な実施。マスクの使用場面の配慮で使用枚数の節約(屋外では着けないなど)
- イベントをやみくもに禁止という措置にはならなかったこと(規模を縮小してでも開催したものもある)
- 出入りが多い部屋は、毎日アルコール消毒を用いた掃除を行う。必要時使用できるように、マスクが備蓄されている。
- 人ごみは避ける。もし、どうしてもの場合は、必ずマスクと手袋をつける。
- 事前にマスクをある程度多めに購入しておいたこと
- 人が密集しないよう、対面会議では距離を置いて座る、換気をする できるだけオンライン、メールで連絡を取り合える体制が整っている 学生との連絡はLINEで行っている
- 当たり前の話ですが、手洗いの励行。生体計測を行うのでハンドソープは研究室の流し台に元々常備しており、それが役に立っています。春休みのため学生もあまり来ませんが、来たらずぐに手洗いするよう、徹底させています。
- 児童デイサービスは休みになることなく、学校の休校や再開に合わせて柔軟な対応をして頂いたので、助かりました。
- 結果的にですが、学生の登校規制や行事の中止は、感染拡大に役立っていると思います。
- 不要不急の外出を控え、他社との接触をできる限り避ける
- 卒業式等のイベントの中止、会議のオンライン化、各所への消毒液の設置。



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# 新型コロナウイルス関連で職場または家庭で工夫していることなどの良好事例

## ■ その他 (つづき)

- slackやzoomの活用
- 時差出勤の奨励、会議の簡略化(メール審議)
- 各棟の出入り口に消毒液を準備。手洗いうがい励行・・・
- 手洗い、うがいの励行、声掛けなど
- 洗えるマスクと洗えるインナーマスクを使用している。微酸性電解水を用いており手指だけでなく、常に身の回りのものの衛生管理を徹底している。プラズマクラスターイオンの空気清浄機も常時稼働させている。また、本人の免疫力を向上するため、睡眠時間の確保(最低7時間)や食事管理を徹底している。さらに笑うことでNK細胞の活性化も行っている(こんなご時世なので少しでも笑っていたいという想いもあり)。
- 手洗いはまめに行うこと。子どもが小学校で過剰反応にならないようエビデンススペースの情報提供を受けていたこと。
- 一般的な事(手洗い、マスク、など)に加えて、各種式典の中止など。
- 職場では会議を遠隔で行っている。昼食は、多数が集まる食堂ではなく、オフィス(個室)でとるようにしている。
- 職場:アルコール消毒、オンライン会議、休止できる行事の休止、延期 家庭:手洗い、うがいの徹底 不要・不急な外出の中止 普段からの健康管理
- 手洗い、アルコール消毒、マスク、人と会話する時は距離と密度と換気に気をつける
- 勤務が自己の裁量に任されていること。
- 教職員とも、誰ともなく、2メートル間隔はお互いあけていることを徹底されています。自分が間隔をあけるのを忘れてしまったら、注意が入り、助かります。また、少し顔を見ない教職員に対しては、メール等で連絡をして無事を確認しています。これらを通して、日頃からのコミュニケーションが大事であると改めて思っております。
- 職場がフレックスなのと、学生が春休み期間中なので、子供の都合に合わせて臨機応変にたいおうできる。時期が良かっただけかもしれないが。



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# 新型コロナウイルス関連で職場または家庭で工夫していることなどの良好事例

## ■ その他（つづき）

- 会議におけるマスクの着用の徹底。
- とにかく手洗いとうがいを励行し、帰宅後は速やかにシャワーを浴びる。
- 手洗い・うがいの徹底
- Webを活用した会議が盛んに行われるようになり、学内開催であれば会場の準備などの事務作業が減り、学外であれば移動などの時間が大幅に削減されたことが、個人としては助かっている。またweb会議自体の活用を見直されている風潮が、今後の働き方の変化につながるような期待感が持てる。
- 大学のインターネットに関するインフラ環境が充実しているため、在宅であっても学務関係の仕事に対する支障はほぼありません。
- 外出を控える マスクを作る 家族数人が在宅勤務のため部屋を片付ける
- スーパーマーケットの入り口にアルコール除菌スプレーが設置された。手指だけではなく、カートの取っ手も同時に除菌できるので安心できる。
- 会議等の際の30分ごとの換気、参加者間の距離、マスクの準備・着用等



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・教育分野でどのような貢献ができるか？

## ■ 教育：11件

- 遠隔教育（オンラインを含めた）、また、オンデマンド教材の充実（現行で、オンライン教育を通信教育以外の大学が実施するためには法改正が必要になります）
- 講義を通じた教育と啓蒙
- 人間の健康の維持には、日常生活での換気、清潔、栄養が必要であることを、学生に伝えることができる
- 医療従事者（作業療法）を養成する教員として、次期医療従事者となる学にも知識や技術を習得させる義務があると考え。その点の教育を怠らない心構えで指導していきたい。
- 感染予防策の教育、テレワーク中の健康管理の提案、感染予防具の開発
- 医療福祉系と大学としての、感染防止等の啓蒙。
- 今回の武漢肺炎ウイルスも含め感染症予防に関する環境衛生学的観点からの教育
- ビデオ教材の制作。
- 遠隔講義の活用など講義形式の工夫 平素からの健康管理
- 新型コロナウイルスの事例を通して、危機事態に直面した際の人間の行動特性や機制を、より具体的かつ明快に、授業で教授し理解を促すことができます。
- 環境と衣食住生活の関係について授業をすること 地球にやさしい衣生活に関する実践的な研究をする マスクを作る・VRを使ったリモート授業・リモートワークの促進など



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

.....

## ■ 教育：10件

- 公衆衛生に関する情報提供（これらのエビデンスに関する情報も含む） 環境制御や心理的な影響に関する情報提供 子供の教育に関する情報提供
- 日本語が非母語の人に対する情報伝達の支援
- 情報をわかりやすく伝える媒体を作ることができる
- 情報提示、行動要請の効果的な方法
- 医療関係なので、感染予防策の実施についての情報提供など
- 危機状況におけるリーダーシップ、クライシスコミュニケーションの助言や知見の提供。
- 分野は看護学なので、感染予防法などの周知は周囲に行うことができる。
- 廃棄物処理を専門にしていますがその観点から、不特定多数の住民から排出された一般廃棄物の処理を行うごみ処理場で勤務されている方々に、ごみピット投入直前での衛生管理について注意喚起をすることができるかと思えます。
- 自宅学習をサポートするeラーニングシステム（Moodle）に関する情報提供
- 感染予防策の周知



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

.....

## ■ リスク管理：6件

- リスク管理
- ヒトが使用するツール開発において、滅菌・抗菌処理を行うなど衛生管理の概念を導入することができると考えられる。
- 国民の安全・安心のための危機管理システムの構築、およびレジリエンス・エンジニアリングの考え方の導入
- 生活行為の研究に基づく、除菌装置の最適化設計。アフォーダンス（物に対する無意識下の運動計画）に潜む感染リスクの説明。
- 想定を上回る状況変化への対応およびその状況下でのリスクマネジメント
- 新型コロナウイルスの事例を通して、危機事態に直面した際の人間の行動特性や機制を、より具体的かつ明快に、授業で教授し理解を促すことができます。

## ■ 設計：4件

- 人間の行動選択に関する理論・実践研究（Two Mindsを拡張したもの）を行っているが、感染症拡大につながる可能性が小さくなるような行動変容を起こす仕掛けをデザインすることに、研究の知見を利用できると考えている。
- 空気の対流、人の密度などに基づき、感染危険を警告する装置の開発。（私の専門ではないが）情報の内容と提示方法による、人々（特に若年層）の受け止め方の相違についての研究。
- 行動制御
- 公衆衛生危機を通じた高齢者・障害者の福祉施設における環境再編整備



日本人間工学会会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

# COVID-19に対して、あなたの専門・研究分野・ 教育分野でどのような貢献ができるか？

## ■ 分析・研究：4件

- 市民に対する健康情報の提供（リスクコミュニケーション）やレセプト等の分析などによる治療の有効性の検証、重症化する患者要因の特定などができるのではないかと考える。
- 感染状況の予測、効果的な検査対象の選定等。
- 感染経路の可視化を行い、手指衛生の管理がいかに大事かを体験できる仕組みの開発など
- 環境と衣食住生活の関係について授業をすること 地球にやさしい衣生活に関する実践的な研究をする マスクを作る

## ■ 相談：1件

- 医療相談、健康支援



日本人間工学会学会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>

## さいごに

第2回緊急アンケートにご協力いただきました学会員の皆様に  
深く感謝申し上げます。

2回の調査を通じて、会員の皆様と共にCOVID-19の公衆衛生危機に対し、  
人間工学がどのような貢献ができるのか、又はできたのかを  
議論する契機としたいと思います。

ご意見・ご提案などございましたら学会事務局までご連絡ください。

< 日本人間工学会事務局 >  
[jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)

\* 本報告は第2回調査の速報です（回答いただいた内容の一部のみ集計）。  
詳細なレポートは別途学会 ウェブサイトに今後公開予定です。



日本人間工学会学会事務局  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-10-16  
赤坂スクエアビル2F

Telephone 03-3587-0278  
Fax 03-6277-7412  
E-mail [jes@ergonomics.jp](mailto:jes@ergonomics.jp)  
Web <http://www.ergonomics.jp/>



一般社団法人 日本人間工学会  
学会改革・戦略委員会  
The JES Strategy and Innovation Committee